アメリカ大学留学；日本人が多い所ｖｓ少ない所

よく「日本人が少ない所に留学すべき」と言われるわけですが、理由としては日本人が少ない方が日本人同士で固まらずに済むからと言う事ですね。

要するに、留学をする目的を「英語の上達」とした時に、日本人が多い所に行くと日本人同士で固まってしまい、現地の人と交友関係を構築して英語を浴びる事が少ないまま留学生活を終えてしまい、英語が上達しないとロジックですね。

私の意見を述べさせて頂きますと、短期長期留学問わず、「日本人が多い所に留学すべき」だと思います。

何故なら、大学ですと、あまり交友関係を構築する機会が無いからです。

大体の大学はクラスが大きいので、誰かと仲を深める機会も多くはありませんし、そもそもアジア人とは友達になりたくないと思う人が意識的、そして無意識にも居るわけで、大して英語も出来ないし、人見知りなあなたが現地に殴り込んで交友関係を構築するのは簡単な事では無いと思うわけです。

そして、日本人が多い所に行く一番の利点が「既にあるネットワーク」だと思います。現地に居る日本人と交友関係をまず構築してから、彼らが友達である現地人を紹介してもらう方が手っ取り早いと思うわけです。

後は、日本人が多い所ならば、最悪、現地人と仲良くなれなくても、日本人でワイワイやればそれはそれで良いでしょうし、逆に日本人の友達が居るからこそ、失う物は無いと、積極的に現地人に声を掛ける事が出来ると言う心理的な余裕にも繋がるでしょう。保険を掛けると言う考え方ですね。

ですから、志高く日本人が少ない所に行って、自分を追い込まなくても良いわけですよ。

目的を「英語の上達」とおいて、そのためには現地人と頻繁に交流して英語を浴びまくる、と言う考え方は英語上達のスピーディーな方法だと私も思いますし、それなら日本人が多い所に行って手っ取り早くそいつらの友達のアメリカ人を紹介してもらうのが効率、保険、確実性と言う観点から良いと私は思います。

英語は出来ても超人見知りで、日本人の少ない学校に行って苦労した私からの経験談話でした。